

経友会ニュース



活動報告

経友会会長

S 49 卒 海老沼 利 光

▼経友会総会・講演会・懇親会を2月15日に母校キャンパスにて開催しました。冒頭、海老沼会長が2025年次事業計画と年次予算案を報告しました。皆川校友会会長には、「演題・大学の歩み」の講演をお願いしました。講演会と懇親会は、神奈川・湘南支部（海老沼支部長）と合同で開催しました。

▼学科先生方との懇親会を開催

知能情報工学科（旧経営システム工学科）の先生方と懇親会を4月2日に1号館4階ラウンジオークで、開催しました。写真①

▼新入生歓迎会を開催

5月14日に学科同窓会・経友会と知



① 知能情報工学科懇親会



② 経友会・知湊会「新入生歓迎会」



③ 経友会役員懇親会

2016年に有馬秀太副会長と海老沼利光会長で始めた「出会いと縁をつなぐ学びの場・エビ会」が10周年を迎えました。

▼自主研究会「エビ会」が10年目突入

経友会役員会と懇親会を4月19日に校友会館・自由が丘クラブにて開催しました。写真③

▼経友会ニュース18号を発行

経友会ニュースの配信は「ペーパーレス」に取り組んでいます。1972年卒業以前のOBの皆様へは「経友会ニュース18号」や「総会開催案内」を郵送します。1973年卒業以降のOBの皆様は、東京都市大学校友会ウェブサイトをよりご覧ください。
<https://department.tcu-alumni.jp/keiyukai>

湊会（旧経工会）と合同で「新入生懇談会」を開催し新入生と交流しました。写真②



④ エビ会（横浜キャンパスにて）



⑤ エビ会9期生メンバーと海老沼会長、金子副会長

2025年度も、世田谷と横浜の両方のキャンパスで「エビ会自主研究会」に取り組んでいます。写真④ エビ会（横浜キャンパスにて）

▼学生と卒業生の実践的学びの場「エビ会」

新田勇樹斗会長を中心にエビ会9期生メンバーは「経営工学分野テーマとAIプロジェクトマ」に取り組んでいます。写真⑤

▼経工会歴代会長と知湊会歴代会長がつながる「エビ会長」

経工会（学科研究会）会長歴任者5名と知湊会（学科研究会）会長歴任者4名の計9名のメンバーがつながる「エビ会長」を毎月開催しています。若手OB同志の交流と学生との「つながり」を図っています。「エビ会長をつながり」から新たな発見が見え、経友会役員平均年齢が42歳（2025年12月現在）となり、世代交代が進みました。

2025年度 経友会定期総会

2026年2月21日（土）
14:00～17:00
東京都市大学 校友会館

オンライン配信によるハイブリッド形式にて定期総会を開催しました。懇親会では、新旧会員による交流が活発に行われ、大いに盛り上がりました。



総会 海老沼会長



懇親会 乾杯

利他を強めて命輝け



昭和42年卒 元講師
岸野 哲

昭和35年頃ベン・ケーシーという名の脳神経外科医の活躍するテレビ番組に触発され、国立の医学部を受験したが失敗。二年目も挑戦したが、途中で進路変更。知人の「数学が経営」との勧めがあり、遅くまで入試のあった武蔵工業大学経営工学科に入学。昭和42年に五期生とし卒業しました。名古屋工業大学に進学。昭和44年に母校経営工学科の助手に採用され、初任給は月額三万七千円でした。その後六年ほどは卒業する学生の初任給が私の給料より高い時代が続きました。

名工大受験科目にオペレーションズ・リサーチを選択したのですが、試験内容は差分の問題で、大学の講義内容と全く違うことに驚きました。

昭和47年にコンピュータ教育の必要性を説いたところ、村原先生の音頭で講師以下の全員による経営工学に関する真摯な会合が学外で開催されました。うわさを聞いた助教時から我々も入れよということ、二回目からは十号館に研究室のある全員が参加、時には泊まり込みで喧々譁々。誰かの発案で夏ミカンを一箇用意し、発言はミカン保持者限定としたこともありました。

学科の会議でもコンピュータ教育の議論が始まり、当時の遠藤主任教授から、数人の他学科の先生方への説明を指示されたこともありました。先生の水面下での協力を

ありがたく思った次第です。何回目か覚えていませんが、例によってほとんど徹夜の議論の後、出勤したところ、遠藤先生から山田学長がお呼びである旨連絡があり、急遽学長室へ。

学長からは、経営工学科にコンピュータを導入することについてどんな体制でどの質問でした。例の会合でも詳しく決めていたわけではありませんが、全員の一致した見解だと思ふことから概要次のように答えました。責任者は加藤先生、副室長に村原先生。私は室員。

この説明後その場で許可の言葉をいただき、早速機種選定等諸々の準備を開始。昭和49年に経営工学科専用のコンピュータが設置され、翌年からコンピュータ・ウィークを中心とする教育が始まりました。

昭和54年母校創立五十周年記念事業の一環として工学部情報処理センターが設置されましたが、これも経営工学科の情報処理教育に影響されたものと思います。後日情報処理センターの所長から、経営はなぜ正規軍が出とこないのだと言われたことがあります。最上の誉め言葉と受け止めることに、学生諸君を誇りに思いました。

母校の名称変更が一年遅れたので、私は武蔵工業大学を定年退職しました。その後神奈川被害者支援センターに所属し、現在まで神奈川県下の中学校・高等学校に出張授業「命の大切さを学ぶ教室」の講師を務めています。また最近が高津区老人クラブ連合会の会長として、川崎市老人クラブ連合会の理事をしています。

三年前に妻を亡くしましたが、必要としてくれる人がいることに感謝し、もう少し頑張る所存です。皆様のご活躍を祈念いたします。

島田先生を偲ぶ会

S52卒 板橋 康之



2025年11月8日 14時
東京都大学9号館スカイカフェテリア
中2階で開催しました。

この場所の開催に当たり尽力を頂いた校友会事務局の菊池さん銀座スエヒロの福田さん機械工学科の白木教授には、本当にお世話になりました。

私が、この偲ぶ会を開催したいと思ったのは、先生と最後のお別れが出来なかったからです。

80年卒業の服部君と私でゼミ生1973年卒、2004年卒255名への声かけで14世代39名が賛同して参加頂きました。長女邦江さん、次女友紀さん、白木教授、知能情報工学科の森教授全員で43名になりました。

偲ぶ会は83年卒業の潮君の司会のもと、開会の挨拶で始まりました。先生は2025年3月17日87歳で亡くなりました。

テーブルに先生の遺影写真と花を飾り、その横のスクリーンには各年代のゼミ生と先生の写真が映りだしていました。弔辞を71年卒業の長沼様、機械工学科の白木教授にお言葉を頂きました。

献杯の挨拶は77年卒業の小板橋君にお願いしました。暫く会食した後で14世代の各年代代表にスクリーンの写真と共に思い出話や先生の人柄が伺えるエピソードを披露して貰いました。

最後に閉会の挨拶を私と親族代表の長女邦江さんが行い、島田先生の偲ぶ会を無事終える事が出来ました。

準備するに当たり手間はかかりましたが、出席して頂いたみんなに喜んで頂いて何よりでした。私もあの世で会えたらしっかり先生の偲ぶ会を都市大で行いましたと報告出来そうです。



全国の経友会員の皆様と

S55卒 経友会副会長 金子正樹



東海支部 山村精一様 (S41卒)

東海支部 加納裕章様 (S57卒)

広島支部 渡辺秀樹支部長 (S55卒)

石川支部 八木圭一朗様 (H3卒)

岩手支部 伊五濱俊平様 (H21卒)



東海支部 森川信一郎様 (S54卒)・山田久利様 (S53卒)

福井支部 荒井由紀夫支部長 (S49卒)

千葉支部 小林敏平様 (S52卒)

岩手支部 赤澤友一郎様 (S60卒)



佐賀支部 野中陽平様 (H16卒)

佐賀支部 横山敬司支部長 (S54卒)

埼玉支部 岡村一巳様 (S52卒)

富山支部 吉森真人様 (H17卒)

富山支部 横山栄様 (S46卒)



東京支部 吉橋成人様 (S57卒)

東京支部 板橋康之様 (S52卒)

東京支部 森下修至支部長 (S50卒)

福岡支部 中島秀司様 (S52卒)

福岡支部 鐘川邦次郎様 (S45卒)

経友会の代表として校友会の副会長をさせていただき、全国の地方支部の総会に参加し地方在住の経友会員の皆様と交流する機会がありました。皆様とお会いして懇談させていただきました。

支部では新しいメンバーをお待ちしています。地方支部にてお会いできて、大学・学生の様子や昔ばなしに花を咲かせたいと思います。よろしく願いいたします。

大学時代を振り返って

R1卒 経友会幹事 大場章行

経営システム工学科を2019年に卒業した大場と申します。大学卒業後も経友会をはじめ、校友会湘南支部など、さまざまなOB会活動に参加させていただいております。新卒でメーカーに就職し、気がつけば今年で社会人8年目を迎えました。今回このような機会をいただき、学生時代から現在に至るまでを振り返る中で、大学時代の経験が、今の自分の仕事観や物事の考え方の土台になっていることを改めて感じています。

私が学科研究会である経工会に所属したのは、大学2年生の時でした。きっかけは仲の良い友人からの誘いでしたが、当時は学生時代に何か一つでも精力的に取り組んだ実績を残したいという思いがあり、活動に参加していました。活動としては、とある市のビジネスコンテストに参加したり、学年を超えた勉強会の企画をしたりと、色々と試行錯誤しながら取り組んでいたことを覚えております。ちなみに、ビジネスコンテストは最終的に優勝してしまい、印象深かったエピソードの一つです(笑)

大きな転機となったのは、大学3年生の時に現経友会会長の海老沼さんと出会ったことです。海老沼さんに経営工学の講義をしていただき、自分が学んでいる経営システム工学が、実社会でどのように活用されているのかを具体的に理解できるようになりました。講義では、経営工学の考え方やトヨタ生産方式、工場の見方、財務諸表を通じた企業の見極め方など、多くの実践的な内容を学びました。この活動は、「海老沼さんの会」を略して「エビ会」といつしか呼ばれるようになり、現在では正式な名

称として定着しています。

また、勉強会のほかに都市大OBの方々所属されているメーカーの工場見学にも数多く参加させていただきました。学生のうちから実際の製造現場を見ることで、大学で学んでいる内容が社会でどのように役に立っているのかを肌で感じる事ができました。学年や立場を超えて様々なお話を聞ける環境があったことは、学科同窓会ならではの貴重な経験だったと感じています。こうした経験を通じて、大学で学んだことを社会人になってからも活かしていきたいと考えるようになり、また小さい頃からものづくりが好きだったこともあり、メーカーの生産技術を志しました。

現在は、製造現場に近い立場で、現場改善を軸とした業務効率化に加え、データ活用を進めるための基盤整備にも取り組んでいます。製造現場には、個別に管理されている情報や、十分に活用されていない情報が数多く存在しています。そうした情報を整理し、相互に連携させていくことで、間接業務の負担を減らすとともにデータをもたにした作業改善につなげることを目指しています。大学時代に学んだ田や品質管理の考え方、現場を起点に物事を捉える姿勢は、社会人になった今も変わらず活かしていると感じています。今後も、学科同窓会とのつながりを大切にしながら、自分自身の学びを深め、仕事に活かしていければと考えています。



エビ会との出会いと縁

環境学部
環境経営システム学科4年
田 仲 遼 成



この度は、経友会ニュースへの寄稿という貴重な機会をお与えいただき、誠にありがとうございます。環境学部環境経営システム学科4年の田仲遼成と申します。

なぜ環境学部所属する学生が、経営工学を学ぶエビ会に寄稿しているのか。そう不思議に思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、私が経営工学、そしてエビ会に辿り着いた背景には、個人的な興味と大学での学びの中で感じた課題意識があります。

私が経営工学に関心を持つようになった原点は、幼い頃からの趣味であるバイクや車です。単に乗る楽しさだけでなく、「なぜこのように動くのか」「多くの部品がどのように組み立てられているのか」といった、ものづくりの背景にあるシステムそのものに強い関心を抱いてきました。こうした思いから、大学では経営の仕組みを科学的に捉えたいと考え、現在の学科に進学しました。しかし学修を進める中で、環境保全やCO2に重点が置かれた内容と、自分が求めていた「現場の生産性や効率性を追求する経営工

学」との間に隔たりを感じるようになりました。環境を守るためにも、企業活動そのものが合理的で持続可能である必要があると考え、学部の枠を超えた学びの必要性を強く意識しました。

その転機となったのが、経営工学研究室、そして海老沼先生との出会いです。研究室の友人を通じてエビ会を知り、先生をご紹介いただいたことで、経営工学が机上の理論ではなく、現場で人や組織を支える実学であることを実感しました。この出会いが、私の学びの軸を大きく広げてくれました。

エビ会での活動は、就職活動においても大きな財産となりました。志望するメーカーで活躍されているOBの方々との交流や工場見学を通じて、「カイゼン」や「5S」が現場でどのように実践されているのかを自分の目で確かめることができました。また、論理的思考力だけでなく、現場で求められる姿勢やコミュニケーションの重要性も学びました。

こうした経験を通じ、企業名や製品イメージではなく、「企業がどのような考え方で事業を行い、どのような人材を求めているのか」という視点で進路を考えられるようになりました。

振り返ると、他学部の私が経営工学を深く学ぶことができたのは、海老沼先生をはじめとするエビ会、そして経友会の皆様のご縁のおかげです。春からはメーカーの一員として社会に出ますが、環境学と経営工学の両方の視点を活かし、持続可能なものづくりに貢献していきたいと考えています。最後になりますが、貴重な学びの機会を与えてくださったすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

知湊会 活動紹介

知能情報工学科2年
知湊会 会長 新 田 勇樹斗

「学科研究会の会長として、この一年間、勉強会や進路研究会の企画・運営、企業見学の実施、そして簡単なAIソフトウェアを作成するプロジェクト活動などに取り組んできました。活動を通して強く意識していたのは、「一つのチームをまとめること」です。わかりやすい説明や報連相、言動の一貫性といった基本を大切にし、会長として周囲から信頼される存在であることを何よりも重視してきました。

一方で、活動の企画は特に難しさを感じた点です。多くの取り組みがゼロからのスタートであり、手探りで進める場面も少なくありませんでした。その中で、OBの方から企業見学のお話をいただくなど、多くのご支援に助けられました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

私が会長就任時に掲げた目標は、過去の自分のような後輩の期待を裏切らないために、「メンバーをサポートできる環境」を構築し、研究会の活動を定着させることでした。特に、新入生がつまづきやすい試験対策と、学科での学びを活かした実践的な活動を強化する必要があると考えました。そこでまず、変革の意思を全体に共有し、賛同してくれたメンバーと活動方針を明確にしました。

具体的な取り組みとして、活動の仕組み化に注力しました。毎回全員の都合を調整するのではなく、課外活動が推奨されている毎週水曜日の午後を活動日として固定し、継続性を最優先しました。また、プロジェクト活動では、自身が技術的なりー

ダーになるのではなく、まとめ役に徹し、メンバーを役割ごとに分けることで、全員が主体的に関われる体制を整えました。その結果、「やることのないメンバー」を生まない活動運営が可能になったと感じています。

これらの取り組みの成果として、新入生の活動参加率は大きく向上し、特にOBの方々の合同企業見学には、ほぼ全員が参加するようになりました。また、準備期間中に後輩から「先輩のおかげで当日がとても楽しかったです」という言葉をもらえたことは、当初の目標であった「後輩をサポートできる環境づくり」が実現できた証だと感じています。

私はまだ二年生であり、会長としての任期は来年まで続きます。今後は、研究会の存在感を学科全体にさらに広げるため、広報活動の強化や他団体との連携、合同イベントの実施など、より多角的な活性化に取り組んでいきたいと考えています。

「後輩の期待を裏切りたくない」という強い責任感を原動力に行動してきたこの一年は、「自分が行動すれば状況は変えられる」という未来への自信につながりました。これからはこの自信を原動力に、研究会の活動や人との交流に一層力を入れ、好奇心と柔軟性を高めながら、自身のキャリアの可能性を広げていきたいと思っています。

